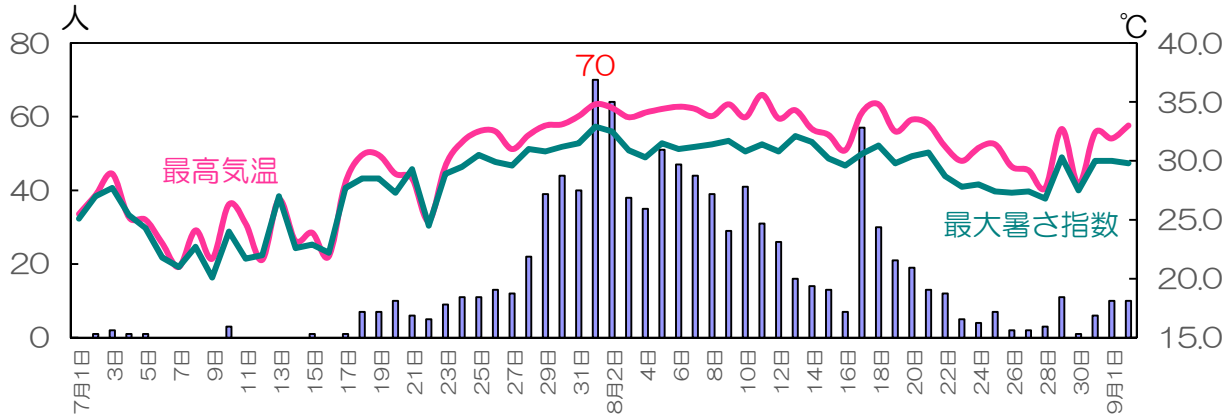


# 熱中症情報

## <搬送数>

令和元年5月1日～9月2日までの搬送数（消防局データを使用）は、計1,119人（5月55人、6月40人、7月246人、8月758人、9月20人）でした。

梅雨明け後の猛暑続きで、7月29日～8月8日は、1日の搬送数が30人以上でした。その後も暑さが続き、8月の搬送数は758人にもなり、全搬送数（1,119人）の約68%を占めていました。9月に入りましたが、まだ真夏日が続いています。夏の疲れが出る頃でもあるので、十分な栄養と睡眠で、体調を整え、熱中症にならないよう、こまめな水分補給とエアコン・扇風機を上手に使用して、暑さから身を守りましょう。



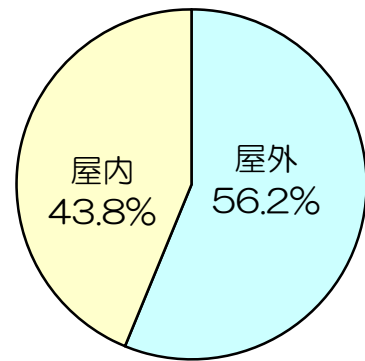
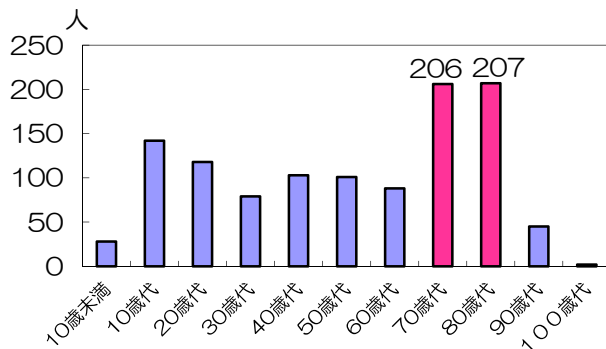
**暑さ指数とは？**人間の熱バランスに影響の大きい①湿度 ②日射・輻射(ふくしゃ)など周辺の熱環境 ③気温の3つを取り入れた温度の指標 詳細は「環境省熱中症予防情報サイト [暑さ指数\(WBGT\)とは？](#)」をご覧ください。

## <年齢別>

年齢別で多かったのは、80歳代が207人、70歳代が206人でした。

## <発生場所>

屋外56.2%、屋内43.8%で、屋外の発生が多いですが、室内での発生割合が増加しました。



## <重症度>

軽症58.9%、中等症36.7%、重症3.8%、重篤0.6%でした。重症・重篤の内、高齢者（65歳以上）の割合は約76%を占め、その中で、室内の発生が約68%でした。高齢になると室内で重症化する傾向が伺えます。

